

# 飾大だより

第386号

発行所  
天理教飾大分教会  
大阪市西区靱本町  
1-18-12  
TEL06-6441-0197  
FAX06-6446-1913  
shikidai24@gmail.com

## 恩を感じる 恩に報いる

先日中国から、28年前に留学生として来てた張 斌峰君が、友人と甥っ子連れで教会に来てくれました。

張君は仕事で日本に来ては必ず、教会に参拝に来てくれて、たくさんのお供えやお土産をしてくれます。

以前中国に行っても、過分なおもてなしをしてくれました。

それもこれも、昔お世話になった教会のおかげ、前会長さん会長さんのおかげ、何よりも今こうして仕事ができるのも神様のおかげという、「ようぼく」として、人としての恩を感じ、御恩報じの思いがあつてのことと、当り前ですと、喜んでする姿に、こちらも感心してしまいます。

将来日本に留学させたいと、高校生の甥っ子を、しばらく教会で日本の文化や神様のことも知ってもらいたいというこ

とで、2週間ほど預かりましたが、「おぢば」がえりをして、初席も受けてくれて、教会生活でそれなりに何かを感じてくれたと思います。

これは張君だけではなく、同じく中国



ん。日本人でもいろんな人がいます。当然外国人でも様々です。

大恩忘れて小恩送るような事ではならん。このお言葉は、神様のお働きとしての大恩を忘れてしまうと、日常の人の恩にも気づけなくなってしまうことになるで、とも解釈できます。

常々小恩に気づく心を養うこととして、感謝をすること。親切されたこと、助けられたことを忘れず、心でも言葉でも「ありがとうございます」の感謝を表すこと。そして人への小恩のみならず、生かされている神様への大恩を忘れてはいけない。陽気ぐらしを通して、人をたすけ、人を思いやる行いを積み重ねることが、親の思いやお働きを伝え広めることが、神様の大恩へのお返しになり、御恩報じとなるんですね。

どこの国の人であろうが、元気であるうがそうでなくても、生かされてる根本を知られば、感謝をしたくなり、喜んでもらえるような思いになるはず。

そのためにも、教えを通した親の思いやお働きを、大いに伝えていきましよう！

の羅昆さんも同じように言い、してくれませす。(他にもいらつしやいませすよ)

今のご時世、中国人だからとか、外国人はとか、一括りに人を判断してしまうことがあるかもしれませ